公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援　マザーズ城東			
○保護者評価実施期間	2025年　1月　11日	～	2025年　1月　28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	17名	（回答者数）	14名
○従業者評価実施期間	2025年　1月　15日	～	2025年　1月　18日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7名	（回答者数）	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　2月　15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育環境	小学校就学をスムーズにするという目的のもと、黒板や机、椅子など、小学校の教室を意識した環境にできている。	定期的に行っている、近隣小学校の支援学級の見学を継続的に行い、小学校の教室環境の実態を把握し、自事業所の療育環境の整備に生かす。
2	活動プログラムの充実	活動後に毎回職員間で意見を出し合ってプログラムの修正を重ねており、組織的に立案している。 実施季節等をふまえて１年分のプログラムが用意されている。 児童の利用頻度に配慮して、幅広い活動に参加できるようにスケジュールを組んでいる。	研修会への参加や日々の勉強会により、さらに専門的な知見を職員が身につけて、効果的な活動プログラムの立案につなげる。
3	小学校への移行支援の充実	児発管が他職員に意見を聴取した上で移行支援会議などに積極的に参加し、得た情報を事業所に持ち帰って全職員に共有し、支援に生かしている。	学校や園だけでなく、保健・医療機関との連携もより密に行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流の機会がない。	土曜のみ、１回あたりの療育の時間が1時間のみのため、時間的に難しい。	職員の知人の地域住民に来所してもらって人形劇を上映してもらった。放デイの児童向けのイベントではあったが、児童発達支援の児童にも声をかけたところ、数名参加があった。このような機会を増やしていく。
2	個人情報の管理（運動会での名簿紛失）	当該のイベントは事業所の垣根を越えての実施だったこともあり、当事業所の職員に慢心があった。	「自事業所の児童の個人情報は、自事業所の職員が責任を持って管理する」という基本原則に立ち返り、自事業所内でイベントごとに個人情報の管理者を指定するなど具体的な方策を決定して徹底する。
3	外部での、児童発達支援特有の研修に参加する機会が少ない。	法人内で児童発達支援を運営しているのが当事業所のみであり、風通しが良いとは言えない。	県療育センターとの関係づくりを目指して、センター主催の研修等への参加を試みる。